

台湾と中国の「Best Mix経営」を追求

台湾松下電器(股)(以下、台湾松下)は1962年に設立され、既に台湾で40年の活動の歴史を持つ。台湾松下として音響機器やAV製品などの生産や研究開発を行うほか、台松電器販売(家電製品の販売)、松下資訊科技(通信機器の販売)、台湾松下技術服務(メンテナンスサービス)などの台湾松下100%出資の子会社をもつ。また1996年には中国福建省廈門に、カーエレクトロニクスやモーターなどの生産を行う廈門建松電器を設立している。今回は台湾松下の藤井康照総経理に、当社の台湾における事業活動についてお話をうかがった。

台湾松下電器(股)
藤井康照 総経理



1962年に進出し、台湾で40年の歴史を持つ

貴社の概要についてお聞かせください

藤井：台湾松下は松下電器産業の台湾現地法人として、1962年に設立しました。40年前の会社設立当時は、台湾松下では主にラジオ、レコードプレーヤー、スピーカーなどを生産していました。その後、事業部門を拡大し、現在では音響製品、AV製品、システム製品、電化製品、エアコンなど合計53品目を生産しています。昨年度の売上は約302億元、従業員数は約4,600名です。

販売やサービスを担当する子会社を設置しています

藤井：まず販売に関しては、1995年に通信機器、OA機器、システムを扱う松下資訊科技を、そして2000年に家電製品の販売を担当する台松電器販売を設立しました。台松電器販売は1000余店の販売店からなる台湾の家電業界最大の販売網をもちます。またメンテナンスサービスに関しては、1992年に台湾初の家電専門サービス会社である台湾松下技術服務を設立しました。

日本と比べても遜色の無いサービスを提供

台湾松下はサービス業務に非常に力を入れています

藤井：メンテナンスサービスを担当する台湾松下技術服務は、台湾全島及び金門にサービスステーション、お客様ご相談センター、修理工場、400余店の特約サービスステーションを設置しています。2003年からは同業他社に先駆けて三年間保証サービスを開始し、365日、24時間受付のメンテナンス体制をとっています。

台湾でのサービスレベルは日本と比べいかがですか

藤井：台湾松下技術服務を通じたサービスは非常に充実しており、日本松下と比べても遜色の無いレベルだと考えています。例えば、台湾ではサービス会社である台湾松下技術服務の従業員は287名、販売会社の台松電器販売の従業員は256名ですが、サービス担当スタッフが販売担当スタッフより多いのは、世界の松下グループの中でも台湾だけだと思います。更に、今年4月からは、販売会社とサービス会社のトップを1人にする形で、販売とサービスの一体化を通じた、サービスの一層の充実を目指しています。

日本企業から見た台湾

サービスに対する台湾消費者の見方は？

藤井：これまで台湾ではさほどサービスは重視されてきませんでした。しかしこれはサービスに対する消費者のニーズが無かったというより、むしろ消費者の求める潜在的なニーズに対応するサービスを、企業が提供できなかったということだと思います。日本でもサービスが重視されるようになったのはここ10年くらいのことですが、台湾でも新しいサービスを受け入れる土壌が徐々に出来つつあります。中国などから入ってくる安だけの製品との差別化という観点からも、サービスの付加価値は極めて重要だと思います。

經濟部認定のR&Dセンターを設置

台湾での研究開発活動についてお聞かせください

藤井：松下グループの台湾での研究開発活動は、1981年に松下本社100%出資の形で、台湾にパナソニック台湾研究所を設立したことに始まります。その後、台湾松下としても技術スタッフを拡充し、現在は約600名の開発設計及び品質管理のスタッフを擁しています。また2003年には、台湾政府經濟部の認定を受けたR&Dセンターを設立しました。このR&Dセンターでは約70名の技術スタッフがシステムソリューション、通信ソフト応用技術、ネットワーク、画像処理技術等の研究開発を行っています。

台湾での研究開発を行うメリットは？

藤井：台湾松下が台湾で生産する製品は多岐にわたりますが、これらの製品の先行開発を台湾で行い、親会社に頼らない自主開発体制を整えたいというのが、台湾で研究開発を行う理由です。最近では、台湾で生産する商品の先行開発だけでなく、ネット家電やシステムソリューションなど、新しい分野に関する研究開発にも力を入れています。

台湾と中国の「Best Mix」経営を追求

1996年に廈門建松電器を設立しました

藤井：廈門建松は台湾松下が90%、松下本社が10%出資する形で、1996年に中国福建省廈門に設立しました。合計1,600名の従業員を擁し、カーエレクトロニクスを中心とした12品目の生産を行っています。松下グループは中国に45の専門工場を有していますが、廈門建松は松下グループの中国大陆における唯一の複合製品の拠点です。

台湾から進出するという形をとられたのは？

藤井：廈門建松は台湾松下が自ら出て行く形で、中国に進出しました。言葉や文化の同一性という背景から、中国のことが一番良く分かっているのは台湾人ですし、中国政府とのコミュニケーションや、台湾企業に対する税制面の優遇に関する考慮からも、台湾から進出するのが良いと判断しました。台湾松下の人材は、日本流の仕事の仕方やマネジメントスタイルをよく理解していますので、廈門建松は台湾人のスタッフがとてもうまくオペレーションをしています。

台湾松下と廈門建松の役割分担は？

藤井：台湾松下では最先端の設備・プロセスを導入し、ものづくりと設計開発で先行的なノウハウの蓄積を行いたいと考えています。一方、廈門建松はカーエレクトロニクス、モーター、ジュース、トースターなどの松下グループにおけるグローバル生産拠点としたいと考えています。台湾と中国の「Best Mix 経営」の追求により、今後も台湾に根を下ろした発展を実現できればと考えています。